

＜エントリーシート＞	部門	学校名・氏名
※事務局記入欄	平成 29 年カリキュラム・マネジメント指導者養成研修	知立市立知立小学校 橋本 幸
No. : A - 15	活動名	
	P D C Aによる授業改革 ～大規模校での課題克服をめざして～	

課題の設定：

- ・児童 8 6 0 人・教員 5 0 人・全 3 0 学級の大規模校において、研究主題における理論の共通理解や意思疎通には時間がかかる。勤務形態も多様化し、決定事項の浸透に関しては工夫が必要とされる。
- ・職員の数が多いため役割も分散し、研究推進は特定の教師に偏りがちである。また、達成度の把握も容易ではない。学校全体での授業改革の取り組みには、何より各教員の主体的な取り組みが必要となる。
- ・新学習指導要領で明示された「主体的・対話的な深い学び」に基づいた授業改革を職員の共通理解と主体性によって活性化させたい。そのために PDCA の明確化に努めることにする。

方針・計画：

- ・「授業改善に基づく研究主題の推進に際して、PDCA の明確化を核とする授業評価システムを構築すれば、一定の成果を自主的に発揮しようとする意識が高まり、授業改善の取り組みは活性化するであろう。」との仮説を立てて、活動内容を設定した。

活動内容：

- ・P 段階は主題の方針を 4 月の初旬で伝え、最低限行うべきことを明示して(図 1)、年度当初から実践に入るようにした。また、主題の組織を再編し(表 1)、全員が主題に何らかの形でかかわることができるようにした。さらには、PDCA を意識できるように図で示した(図 2)。
- ・D 段階は主題の一人一実践公開を設定し、主題の解釈を実践で示すように求めた。
- ・C 段階は全員が参加する主題全体会・協議会(写真 1)・夏季研修会(写真 2)のあり方を検討し直し、カリキュラム・マネジメントの観点から大学の先生にも評価を仰いだ(写真 3)。また、実践ごとに報告書を作成し(写真 4)、多くの成果と少々の課題を明示した。
- ・A 段階ではこれまでの課題を明確にし、次に行われる実践で意識して行うように求めた。

活動の成果：

1 1 月に教員に対して意識調査を行った。道半ばではあるが、「ハンドサインを活用しているか」といった質問では、7 0 %の担任が「できている」「どちらかといえばできている」と示すなど、少しずつ意識は高まっていると感じる。また、一人一実践報告書「主題より」を通じて他の教員の取り組みを知り、自身の実践に生かそうとすることがアンケートから伺えた(図 3)。

アピールポイント(アイディアや工夫)：

- ・学校のカリキュラム・マネジメント力が問われている。しかし、学級担任に求める際にはより具体的に提示していかなければならない。そのために主題研究の流れを PDCA を提示して、全体的なイメージを捉えるようにした。
- ・教員が目目の児童への指導の過程で、授業改善の意義や方針を理解し、その実践が教育目標の達成につながっていることを実感していくことが大切である。そのために、一人一人の授業実践からその都度成果と課題を明示して示すようにした。
- ・多くの教員が勤めている大規模校の実態をふまえ、研究組織の再構成や授業研究・研究協議会の方法をあらため、一人一人の主題研究への参加意識を高めて、研究実践への主体性を高めていくようにした。

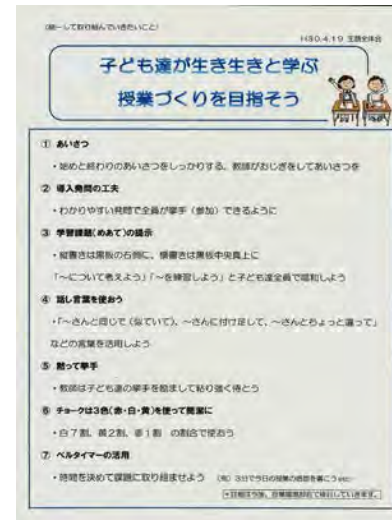


図 1 学習ルールの確認



図 2 主題研究を主とする PDCA

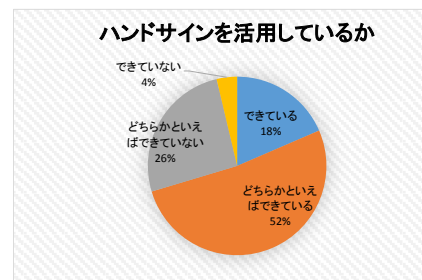


図 3 職員へのアンケート

ハンドサインの活用について

各 部 会 の 取 り 組 み

①	授業部会 (10 名)	子ども達の主体的な学びを目指して、指導案の検討、教科間のつながりを考える。
②	授業環境部 会(10 名)	学習のきまりを考える。またそのきまりが守れているかチェックを行い、検証していく。知小アンケートの作成。
③	学習スキル 部会(10 名)	子ども達の言語能力を高めるために、毎週火曜日のおあさごタイムを充実させ、コミュニケーション力を高める取り組みを推進する。
④	学級づくり 部会(10 名)	スキル部会と連携し、おあさごタイムを充実させていく(エンカウンター)。また、道徳の別葉の作成を行う。

表 1 研究主題四部会と各部会の取り組み



写真 1 ワークショップ方式による主題協議会の様子



写真 2 単元名配列表の作成より教科のつながりを確認



写真 3 名古屋大学准教授
久野弘幸先生からの評価



写真 4 一人一実践の報告書

「主題より」

- ・普段他の先生の授業を見に行くことができないので参考になる。
- ・常に意識付けとなり刺激を受ける。
- ・具体的にどういうことを意識して他の方がやっているか分かる。
- ・成果や課題がはっきりする。
- ・他の先生がどのように主題を捉えているか分かり勉強になる。

「主題より」の感想